

◎ 資料

1 学術研究の成果

エコチル調査に関する掲載論文一覧(平成30年度まで)

	タイトル	著者名	雑誌名
1	東日本大震災後の福島の子どもたちとエコチル調査ができること	橋本 浩一 他	とやま小児保健 年：2012 月：11 巻：10頁：16-18
2	エコチル調査への期待と責任(特集(エコチル調査に求めるもの-環境リスクから子どもを守るために-))	橋本 浩一	化学物質と環境 年：2014 月：5 巻：125頁：7-8
3	福島ユニットセンターの活動	橋本 浩一	チャイルドヘルス 年：2014 月：3 巻：19頁：48-49
4	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」	橋本 浩一 他	福島県保健衛生雑誌 年：2016 月：3 巻：27頁：28-32
5	The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture - A progress report on the enrollment stage (福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」-リクルート期間の進捗報告)	橋本 浩一 他	Fukushima Journal of Medical Science 年：2017 月：8 巻：63(2)頁：57-63
6	小児疫学調査における2歳児を対象とした採血実施状況 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」詳細調査から	佐藤 晶子 他	福島県保健衛生雑誌 年：2017 月：3 巻：29頁：14-18
7	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」追跡期間の課題と取り組み	佐藤 晶子 他	福島県保健衛生雑誌 年：2018 月：3 巻：31頁：25-31
8	The Effect of Maternal Age at the First Childbirth on Gestational Age and Birth Weight : The Japan Environment and Children's Study (JECS) 母体年齢が初回分娩における妊娠週数、出生体重に与える影響(エコチル調査)	経塚 標 他	J Epidemiol. 年：2019 月：5 巻：29(5) 頁：187-191 オンライン掲載 2018年8月4日
9	The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture : Pregnancy Outcome after the Great East Japan Earthquake (福島県のエコチル調査：東日本大震災後の妊娠帰結)	経塚 標 他	Tohoku J Exp Med. 年：2018 月：9 巻：246(1) 頁：27-33
10	Risk of preterm birth, low birthweight and small-for-gestational-age infants in pregnancies with adenomyosis : A cohort study of the Japan Environment and Children's Study. 子宮腺筋症が分娩週数、出生体重に与える影響(エコチル調査)	山口 明子 他	Acta Obstet Gynecol Scandinavica. 年：2019 月：3 巻：98(3) 頁：359-364 オンライン掲載 2018年10月26日
11	大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の実施状況と課題～エコチル調査福島ユニットセンターでの取り組みから～	尾形 優香 他	福島県保健衛生雑誌 年：2019 月：3 巻：33頁：52-57

2 エコチル調査に係る業務全般に関するPDCAサイクルにおける取組状況

※エコチル調査第三次中間評価のために環境省に提出したものの。

(P)計画	<p>指標：「現参加者の減少率を年1%以内にとどめるとともに、質問票の年間回収率(発送後6か月時点)を80%以上に維持する。」指標達成のため、次の項目に取り組む。</p> <p>1 参加意識の維持向上</p> <p>(1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施</p> <p>① エコチルふれあい会の開催 参加者と直接顔の見えるコミュニケーションのとれる貴重な機会であり、県内6地域で計16回開催する。これまでの親子及び保護者対象の企画に加え、今年度は新たに学童期を対象に制作ワークショップを取り入れた内容で企画し実施する。</p> <p>② 環境セミナーの開催 環境については関心が高いことから、保護者を対象とした講演会を開催する。</p> <p>(2) 質問票単純集計結果報告書(リーフレット)の作成 学童期検査開始など転換期を迎え、参加者および関係者と調査の意義や成果を共有するため、質問票単純集計結果報告書(リーフレット)を作成する。</p> <p>2 詳細調査の利便性の向上 2歳時に比べ、4歳詳細調査の欠測数が大幅に増加している。その理由として仕事の都合や検査曜日時間に都合がつかないなど日程が合わないことが大半を占めており、ユニットセンターの検査設定により欠測を防げる可能性があることが判明したことから、参加者が検査を受けやすい環境を整備する。</p> <p>3 ニュースレター「転送不要」の実施(現住所への確実な質問票の送付を目的とし、ユニットセンターが発行するニュースレターの送付を「転送不要」扱いとする)(新規) あて先不明で返戻された時には、参加者へ速やかに連絡し転居先を確認する。それでも確認できない場合、リクルート時の同意に基づき自治体へ住所照会を実施している。(継続) 平成29年度末までに住所照会により住所が判明した事例の多くは、照会日より1年以上前に転居している。あて先不明となるまでの期間との差が生じる一つの理由に、参加者の郵便物の転送サービス利用が考えられる。実際の転居から照会日までの間に、さらに転居したため追跡不能となり、住所が判明しなかった事例もある。 このため、住所変更に対応し、質問票等を確実に届けるため、全参加者に対し「転送不要」扱いで、次のとおりニュースレターを郵送する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">ニュースレター発行時期</th> <th style="text-align: center;">福島本部事務所</th> <th style="text-align: center;">郡山事務所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年6月末</td> <td>次号から「転送不要」とする案内</td> <td>準備</td> </tr> <tr> <td>平成30年9月末</td> <td>「転送不要」扱い開始</td> <td>次号から「転送不要」とする案内</td> </tr> <tr> <td>平成30年12月末</td> <td>継続</td> <td>「転送不要」扱い開始</td> </tr> </tbody> </table>	ニュースレター発行時期	福島本部事務所	郡山事務所	平成30年6月末	次号から「転送不要」とする案内	準備	平成30年9月末	「転送不要」扱い開始	次号から「転送不要」とする案内	平成30年12月末	継続	「転送不要」扱い開始
ニュースレター発行時期	福島本部事務所	郡山事務所											
平成30年6月末	次号から「転送不要」とする案内	準備											
平成30年9月末	「転送不要」扱い開始	次号から「転送不要」とする案内											
平成30年12月末	継続	「転送不要」扱い開始											

	<p>現在、2週間ごとの質問票発送に関連した住所確認作業は年間約130件あるため、「転送不要」扱いによる早期の住所確認は、ユニットセンター質問票発送作業移管後の関連業務の効率化につながることを期待される。</p> <p>4 質問票回収状況の分析と対策(継続) 福島本部事務所および郡山事務所全体調査担当者が定期的にミーティングを開催し、質問票の回収率維持についてデータを基に対策を検討する。</p>
(D)実施	<p>1 参加意識の維持向上</p> <p>(1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施</p> <p>① エコチルふれあい会の開催 計画した16回のうち、10月末までに10回開催し252人の親子交流し、リトミック、キッズダンス、笑いヨガ等で楽しんだ。 このうち今年度新たに企画した学童期を対象としたふれあい会(制作ワークショップ)を27名の参加を得て計画どおり7月31日に実施した。 また、参加者を対象に事業評価のためのアンケート調査を実施した。</p> <p>② 環境セミナーの開催 平成31年2月の実施に向けて、テーマ及び講師を決定し、準備を進めている。</p> <p>(2) 質問票単純集計結果報告書(リーフレット)の作成 妊娠中から4歳6ヶ月までの子育てに関する質問事項のうち約30項目の結果をまとめたリーフレットを作成した。 編集に当たっては、ご覧になられた方にとってわかりやすい表現になるよう努めた。また、環境省のエコチル調査ホームページに掲載されている全国データを用いた成果発表一覧を案内する等、広く調査結果を伝えられるように内容を工夫した。 なお、作成したリーフレットは、今年度中に参加者や関係者に配付する予定である。</p> <p>2 詳細調査(医学的検査)の利便性の向上 参加者が検査を受けやすい環境を整備するため、次のとおり実施した。</p> <p>ア 詳細調査参加者614名を対象に、6歳詳細調査日程調整に関する意向調査を6月から7月にかけて実施した。 なお、回答は540件で回収率は87.7%であった。</p> <p>イ 意向調査の結果に基づき、6歳詳細調査の曜日や時間帯などの利便性の向上を図るため、県内各地域の個人医院に協力をいただくよう準備を進めている。</p> <p>3 ニュースレター「転送不要」の実施 福島本部事務所で、平成30年9月末に「転送不要」扱いでニュースレターを5,032部郵送した結果、171件(3.4%、平成30年10月31日現在)があて先不明で返戻された。現在、電話又はショートメールで参加者への転居確認作業を行い、確認済は132件である。 郡山事務所では、次号発送分から「転送不要」扱いにする旨を9月末に参加者に案内し、予定どおり12月末の発送分より実施する予定である。</p>

	<p>4 質問票回収状況の分析と対策</p> <p>福島本部事務所及び郡山事務所の質問票調査担当者が、毎月同じ指標で回収状況を含む全体調査の進捗状況を報告するようにし、これにより得られたデータを基に、質問票の回収率維持について対策を検討するため、両事務所の全体調査担当者による定期的なミーティングを開催した。</p>
(C)評価	<p>1 参加意識の維持向上</p> <p>(1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施</p> <p>① エコチルふれあい会 ふれあい会の参加者を対象に事業評価のためのアンケート調査を実施したところ、回収率は98.4%であり、「満足」及び「まあまあ満足」との回答は96.0%であった。 また、今年度新たに企画した学童期を対象としたふれあい会には親子27名が参加したが、その満足度は100%で高かった。この学童期対象の参加者は、これまでふれあい会に参加していない人の割合が50%で、子ども及び保護者対象とした企画での割合34.4%に比べて高かったことから、新たなイベント参加者を生み出すことができたものと考えている。</p> <p>② 環境セミナーの開催 平成31年2月に開催する環境セミナーにおいても、新たな参加者の増加に期待しており、アンケートを実施し、評価する予定である。</p> <p>(2) 質問票単純集計結果報告書(リーフレット)の作成 配付後の活用状況等については、今後アンケート調査を行うなどして評価する予定である。</p> <p>2 詳細調査(医学的検査)の利便性の向上</p> <p>参加者へ検査協力の都合をつけやすい条件についての質問項目の集計により、現在実施している平日午前から午後3時ごろまでの設定で、6歳医学的検査において都合をつけやすいと回答した方は、およそ40%にとどまった。 この結果から、利便性の拡大が必要であると判断し、県内2次医療機関および個人医院に協力を依頼した。その結果、4歳医学的検査実施機関は10施設であったが、6歳医学的検査は、新たに21施設の協力を得て計31施設に増やし、また土曜日や夕方の時間帯など対応時間を拡大し実施する予定である。こうした取組により、多忙な参加者から協力を得るための利便性を向上させることができると考えられる。</p> <p>3 ニュースレター「転送不要」の実施</p> <p>福島本部事務所では、1回のニュースレター発送で、従来約20件程度が返戻されていた。「転送不要」扱いとすることで、約8倍のあて先不明件数となった。確認作業開始から約1か月間で132件(77.2%)の転居先等を確認し、残り39件(22.8%)の参加者の状況が未確認である。また、10月中旬にコアセンターから発送された質問票の返戻件数は3件で、上半期の件数との差はみられなかった。これは確認作業中であったためと考えられ、11月以降の返戻件数は減少し、効率よく質問票が参加者に届けることができると期待している。 これらの取組により、質問票が参加者へ確実に郵送できる可能性が高まったと考えられ、今後郡山事務所においても同様に実施する予定である。</p>

4 質問票回収状況の分析と対策

平成30年9月末現在、当ユニットセンターの質問票総発送数110,500件に対し発送後6ヶ月時点での回収数は94,908件であり、回収率は85.9%である。質問票の回収率(発送後6ヶ月時点)を80%以上に維持するという指標は現時点で達成できている。

しかし、他ユニットセンター平均回収率と同様に年齢が上がるとともに回収率が低下する傾向であるとともに、2歳半質問票以降ユニットセンターの質問票回収率について、平成29年9月末時点(第86回実務担当者WEB会議資料)と平成30年9月末時点(第98回実務担当者WEB会議資料)の回収率および他ユニットセンターとの平均の差を比較すると、質問票の発送スケジュールが進むにつれ他ユニットセンター平均回収率より若干下回る傾向がみられるものの、全ユニットセンターとほぼ同様の水準を維持している(表1)。

表1 福島UCと他UC平均回収率推移とその差

検討時期	回収率	6か月	1歳	1歳半	2歳	2歳半	3歳	3歳半	4歳	4歳半	5歳	5歳半	6歳
平成29年9月末現在	福島UCの回収率(a)	96.9%	94.1%	91.0%	87.7%	84.9%	83.0%	80.7%	80.0%	79.4%	78.6%	77.2%	発送後 6か月 未満
	福島UCを除くUC平均回収率(b)	93.6%	90.9%	88.9%	87.1%	85.4%	83.9%	81.6%	80.2%	78.4%	75.6%	75.7%	
	回収率の差(a-b)	3.3%	3.2%	2.2%	0.5%	-0.5%	-1.0%	-0.9%	-0.2%	1.1%	3.0%	1.4%	
平成30年9月末現在	福島UCの回収率(a)	96.9%	94.1%	91.0%	87.7%	85.0%	82.7%	79.2%	77.7%	76.6%	74.5%	76.1%	76.2%
	福島UCを除くUC平均回収率(b)	93.6%	90.9%	88.9%	87.2%	85.6%	84.3%	81.7%	80.3%	78.5%	76.1%	77.2%	76.6%
	回収率の差(a-b)	3.3%	3.2%	2.1%	0.5%	-0.6%	-1.6%	-2.5%	-2.6%	-1.9%	-1.6%	-1.1%	-0.5%

*グレー：現在も発送中の質問票、** 発送後6か月以上のデータを使用

当ユニットセンターの特殊性を把握するために、現在実施している4歳、5歳、6歳質問票の出生年及び事務所毎の回収率を比較した(表2)。この結果、出生年次を追うごと回収率が低下傾向にあること(両事務所共通)や、郡山事務所独自の取組としてお礼のショートメールを送っているものの、福島本部事務所より低い傾向にあることがわかった。

このため、回収率の維持向上を図るためには、参加者全員への取組はもちろんであるが、平成24年以降の出生、及び郡山事務所管轄の参加者の参加意欲の向上につながるような効果的な対応策を検討していく必要がある。

表2 出生年、事務所ごとの質問票回収率

	4歳	5歳	6歳
福島本部 H23年出生	82.2%	80.3%	77.1%
郡山 H23年出生	83.0%	80.9%	78.7%
福島本部 H24年出生	80.2%	74.6%	74.9%
郡山 H24年出生	76.2%	70.2%	77.5%
福島本部 H25年出生	77.1%	73.5%	未実施
郡山 H25年出生	75.3%	68.3%	未実施
福島本部 H26年出生	76.0%	未実施	未実施
郡山 H26年出生	72.7%	未実施	未実施

*グレー：現在も発送中の質問票、** 発送後6か月以上のデータを使用

表3 現参加率の推移

	出生件数	転出	転入	打ち切り	うち死亡	現参加者数	現参加率*
平成29年9月29日時点	12,867	38	104	355	23	12,543	97.5%
平成30年9月28日時点		71	116	453	23	12,459	96.8%

*現参加率は、平成29年度年次評価表1に基づき算出。転出入を考慮した現参加率は、平成29年9月29日時点97.0%、平成30年9月28日時点96.5%であり、マイナス0.5ポイントであった。

	<p>【総合評価：指標に対する評価】</p> <p>上記の取組との直接的な因果関係は分析していないが、過去1年間の転出入件数を調整していない協力取りやめ、同意撤回などによる子ども現参加率の減少は、マイナス0.7ポイントであり、現参加者の減少率を1%以内にとどめることができた。(表3)</p> <p>また、既述のとおり質問票の回収率についても80%以上を維持している。以上により、指標は達成できている。</p>
(A)改善	<p>1 参加意識の維持向上</p> <p>今年度、新たに取り組んだ「環境セミナーの開催」や「リーフレットの作成」については、今後アンケート調査を行うなどして評価を行うこととしており、その評価結果を踏まえて必要な改善を図っていく。</p> <p>2 詳細調査(医学的検査)の利便性の向上</p> <p>6歳医学的検査の実施に当たり、協力医療機関の増加や実施する曜日及び時間帯の拡大が、参加者にとって利便性の向上につながったか、また職員にとって日程調整の負担が軽減されたかなど、検討していきたい。</p> <p>3 ニュースレター「転送不要」の実施</p> <p>郡山事務所で、計画どおりニュースレターの12月末の発送分から、「転送不要」扱いを実施し、年度内に返戻郵送物のあて先確認作業を行う。</p> <p>また、両事務所での確認作業後の質問票発送後返戻件数の推移をモニタリングし、この計画が、質問票発送作業の効率化に関連しているか検討する。</p> <p>4 質問票回収状況の分析と対策：全体調査担当者会議の機能強化等</p> <p>回収率の低下など全体調査に関する課題を解決するため、担当者会議を定期的で開催し対応を検討してきたが、評価の結果を踏まえ、課題に対して、計画、実施、評価、改善までのアクションがスムーズに行われるよう当該会議の機能強化を図っていく。</p> <p>特に、下半期では今後質問票回収率が全国平均と比較してマイナス1ポイントを下回らないことを目標とし、事務所(地域)ごとの現状の分析を進めさらなる対応策を検討する。</p>

ニューズレター：2019年春号(平成31年3月発行)

選っておきフォト

こちらには子育て情報からのご質問を掲載しております。
個人情報は掲載前より削除いたします。
このコーナーのホームページのトップページ
でも見せていただきます。

● 2019年度もよろしくお願いいたします。
● 皆さまのご質問がきっかけとなります。

「外來種ってなあに？」

野田の自然環境 50071 シンボル
知見 藤子

本報では、近郊の自然環境について、人の活動によって自然環境がどのように変化しているか、その変化が生態系に与えている影響、また、その変化を抑制するための取り組み（外来種対策）も取り上げています。また、身近な自然環境について、新しい視点や見方、と従来の見方から異なるものも取り上げます。こうした見聞を「外来種問題」と見なしています。

これは、自然環境を「守る」と「変える」の両方です。しかし、守るだけでは「人の活動によって」変化する自然環境を、本来の自然環境に戻すことはできません。むしろ、自然環境を「守る」と「変える」の両方です。自然環境を「守る」と「変える」の両方です。自然環境を「守る」と「変える」の両方です。

4がっつりおぼえてくれる おもしろおぼえ

おぼえてくれるおぼえ
おぼえてくれるおぼえ

おぼえてくれるおぼえ
おぼえてくれるおぼえ

nanacoカードのお知らせ

おぼえてくれるおぼえ
おぼえてくれるおぼえ

おぼえてくれるおぼえ
おぼえてくれるおぼえ

子どもたちの 健やかな成長と 健康のために

子どもたちの健やかな成長と健康のために

子どもたちの健やかな成長と健康のために

エコチル ふくしま通信

エコチルふくしま通信

子どもたちの健やかな成長と健康のために

子どもたちの健やかな成長と健康のために

子どもたちの健やかな成長と健康のために

2019年度から新しい調査が始まります

2019年度から新しい調査が始まります

2019年度から新しい調査が始まります

エコチル調査①わかったこと

エコチル調査①わかったこと

エコチル調査①わかったこと

花粉食物アレルギー 症状群について

花粉食物アレルギー症状群について

花粉食物アレルギー症状群について

わかったこと

わかったこと

わかったこと

エコチルふれあい会

エコチルふれあい会

エコチルふれあい会

エコチルふれあい会

エコチルふれあい会

エコチルふれあい会

2019年度のふれあい会が変わります！

2019年度のふれあい会が変わります！

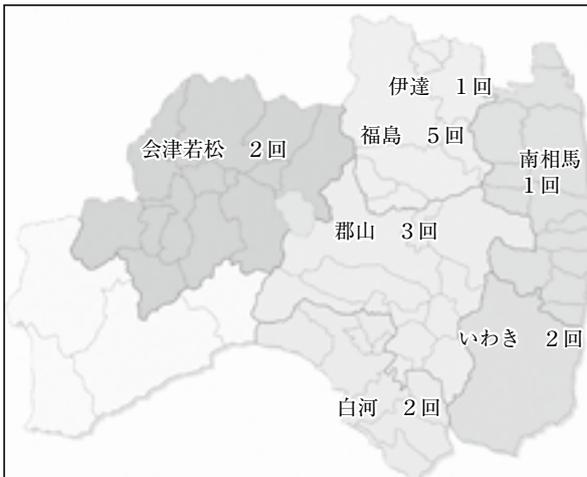
2019年度のふれあい会が変わります！

4 エコチルふれあい会の実施状況

ふれあい会は、福島のお子さんの成長をともに見守るための企画として平成25年度から開始した。ふれあい会は、スタッフにとって親子のふれあい・遊びの場や育児相談などを通じて、福島ユニットセンターのモットーである参加者さんとの「顔が見える」コミュニケーションを具体化できる貴重な機会として実施している。

(1)開催状況

平成30年度は県内6地域で計16回開催した。



開催地域	開催市町村	開催日	内容
県北	福島市	平成30年5月1日(火)	母親ストレッチ
		7月31日(火)	全県学童対象ワークショップ
		8月7日(火)AM	キッズダンス
		8月7日(火)PM	キッズダンス
		11月6日(火)	笑いヨガ
	伊達市	平成30年8月20日(月)	キッズダンス
県中	郡山市	平成30年8月31日(金)	子育てワークショップ
		9月7日(金)	3B体操
		12月8日(土)	親子リトミック
県南	白河市	平成30年10月19日(金)	笑いヨガ
		平成31年3月9日(土)	親子リトミック
会津	会津若松市	平成30年5月26日(土)	親子リトミック
		11月16日(金)	子育てワークショップ
相双	南相馬市	平成29年9月30日(土)	親子リトミック
いわき	いわき市	平成30年6月22日(金)	笑いヨガ
		平成31年2月23日(土)	子育てに関する参加型ワークショップ

(2)各対象者のふれあい会の様子

4-6歳児親子ふれあい会

キッズダンス・親子リトミックなどを親子で一緒に楽しみました。



学童対象親子ふれあい会



まほうの水で絵を描いて、素敵なマイ・ランチバックを作りました。(霊山子どもの村)

保護者ふれあい会

笑いヨガや子育てワークショップ、ストレッチや3B体操で
楽しく有意義な時間を持つことができました。



(3)ふれあい会アンケート結果

アンケートは、参加者からふれあい会を含むユニットセンターが行っている事業についてのご意見をいただく貴重な機会であり、ふれあい会実施毎に実施している。いただいたご意見・ご要望は、参加者さんとのコミュニケーション活動計画や実施の改善に役立てている。以下は平成30年度に寄せられたご意見・ご感想をまとめたものである。

1)ふれあい会参加について

① ふれあい会に参加しての満足度

ふれあい会に参加された147名を対象に、「本日のふれあい会に参加されていかがでしたか」と尋ねたところ、「満足」「やや満足」と答えた方は、141名であり、96%以上の方に満足していただいた。

② 自由記載に寄せられた感想、意見等

○4 - 6歳児対象ふれあい会(キッズダンス)

- ・たっぷり体を動かすことができ、楽しんで参加できた。
- ・仕事をしていると一緒に過ごす時間が限られてしまうので、体をめいっぱい動かして楽しかった。
- ・普段こんなに体を動かすことがないので、とても楽しく子どもと遊べてよかった。
- ・下の子を安心してみてもらうことができ、久々に上の子と楽しく2人の時間を過ごすことができた。
- ・前回と比べ、子どもの成長が感じられ、とてもよかった。子どももとても生き生きして楽しそうだった。他の子どもさんの様子を知ることができてよかった。
- ・夏休み、毎日何をして過ごそうかと頭を悩ませていたので、とても楽しい時間をプレゼントしていただき、ありがとうございました。
- ・本当に楽しい楽しいふれあい会でした。常々、子どもにダンスを習わせたいと思っていたので、これが良いきっかけになってくれるといいなと思っている。

○4 - 6歳児対象ふれあい会(リトミック)

- ・子どもが終始楽しそうで良かった。体を動かすリトミックはとてもよかった。
- ・リトミックでは子どもが楽しそうにしている姿を見れてよかった。
- ・保育園以外の友達と遊ぶ機会がなかったので、とてもよかった。
- ・体がなまっていたので、親子で楽しく運動やダンスができてとても楽しかった。また、こういった機会があったら是非参加したい。

○学童期

- ・下の子も一緒に参加できて楽しかった。また参加したい。
- ・とても楽しかった。子どもたちが遊ぶ施設なので、多少うるさくても気にならず過ごしやすかった。また参加したい。
- ・お絵かきは大好きなので、とても楽しめました。
- ・場所は遠かったけど、子どもがのびのびと取り組んでいてよかった。

○保護者対象ふれあい会

(笑いヨガ・おしゃべりタイム)

- ・おしゃべりタイムがよかった。悩みを共有できてよかった。
- ・ストレス解消になった。たくさん笑って楽しかった。
- ・初めて笑いヨガを体験したが、たくさん笑うことができてスッキリした。
- ・笑いヨガで、体と心がポカポカして楽しかった。
- ・笑うことがなかったので、笑顔で笑うように心がけたい。

(子育てに関する参加型ワークショップ)

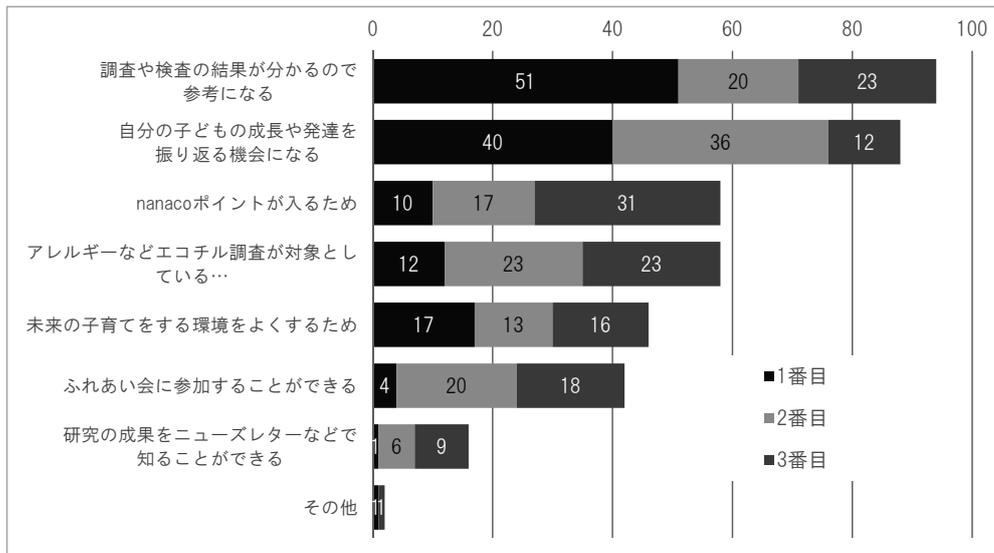
- ・日々子育てについて悩んでいるが、参加したお母さんたちの話を聞いて自分だけではな

いことが認識しでき気持ちが楽になった。

- ・参加されたお母さん方と情報交換、共感することができてよかった。
- ・情報交換の場がなかったり、自分から話すのが苦手なので、こういった機会はうれしかった。
- ・保護者の交流の機会が増えるとうれしくなる。

2) エコチル調査への参加理由

ふれあい会に参加された244名を対象に参加理由を尋ねた。215名の方から理由に順位をつけて三つまで回答していただいた結果、次のグラフのとおりであった。(回答率：88%)



5 エコチル調査協力医療機関・施設一覧(平成31年3月31日現在)

1)産科協力機関(リクルート・妊娠・出産・出産後1か月調査)

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当	備考	
1	県北	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	福島本部 事務所		
2		明治病院	福島市			
3		いちかわクリニック	福島市			
4		ささや産婦人科	福島市			
5		新妻産婦人科	福島市			
6		本田クリニック産科婦人科	福島市			
7		済生会福島総合病院	福島市			
8		大原総合病院	福島市			
9		福島県立医科大学附属病院	福島市			
10		大川レディースクリニック	福島市			
11		菅野産婦人科医院	福島市			
12		セントクリニック	伊達市			
13		二本松ウイメンズクリニック	二本松市			
14		社会保険福島 二本松病院(旧名称)	二本松市		平成25年3月31日終了	
15		渡辺医院	二本松市			
16		谷病院	本宮市			
17	県中	たなかレディースクリニック	郡山市	郡山 事務所		
18		岡崎産婦人科	郡山市			
19		寿泉堂総合病院	郡山市			
20		塚原産婦人科内科外科医院	郡山市			
21		トータルヘルスクリニック	郡山市			
22		太田西ノ内病院	郡山市			
23		星総合病院	郡山市			
24		総合南東北病院	郡山市			
25		古川産婦人科医院	郡山市			
26		国立病院機構福島病院	須賀川市			
27		小森山産婦人科医院	須賀川市			
28	県南	片倉医院産科婦人科	白河市			
29		白河厚生総合病院	白河市			
30		塙厚生病院	東白川郡			
31		岩佐医院	茨城県久慈郡		福島県民のみリクルート	
32	会津	舟田クリニック産科婦人科	会津若松市			
33		竹田総合病院	会津若松市			
34		会津中央病院	会津若松市			
35		坂下厚生病院	河沼郡			
36	相双	あらかし産婦人科クリニック	相馬市	福島本部 事務所	エコチル調査リクルート中断	
37		南相馬市立総合病院	南相馬市			
38		レディースクリニックはらまち	南相馬市			
39		西潤マタニティクリニック	南相馬市			
40		原町中央産婦人科	南相馬市			
41		大町病院	南相馬市			
42		双葉厚生病院	福島市飯坂			
43		今村クリニック	双葉郡浪江町			
44	公立相馬総合病院	相馬市				
45	いわき	村岡産婦人科医院	いわき市	郡山 事務所		
46		渡辺産科婦人科	いわき市			
47		かたよせクリニック産科・婦人科	いわき市			
48		NOBUマタニティクリニック	いわき市			
49		いわき市医療センター	いわき市			
50		森田泌尿器科産婦人科医院	いわき市			
51		つくだ町産婦人科医院	いわき市			
52		月川レディースクリニック	いわき市			
53	佐藤マタニティー・クリニック	いわき市				

2) 詳細調査協力医療機関および協力施設

	エリア	協力医療機関・協力施設名	所在地	担当	医学的検査	発達検査
1	県北	公立藤田総合病院	国見町	福島本部 事務所	○	検査会場借用
2		大原総合病院	福島市		○	
3		福島県立医科大学附属病院	福島市		○	○
4	相双	公立相馬総合病院	相馬市		○	検査会場借用
5	県中	星総合病院	郡山市	郡山 事務所	○	○
6		太田西ノ内病院	郡山市		○	○
7		国立病院機構福島病院	須賀川市		○	
8	県南	白河厚生病院	白河市		○	検査会場借用※
9	会津	竹田総合病院	会津若松市		○	○
10		福島県立南会津病院	南会津町		○	検査会場借用
11	いわき	いわき市医療センター	いわき市		○	検査会場借用
12		子どもの家	いわき市			○

※白河厚生総合病院においては5月末まで白河厚生総合病院所属の心理士が検査を担当した。

3) 平成30年度 疾患情報登録協力医療機関

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当
1	県北	大原総合病院	福島市	福島本部事務所
2		福島県立医科大学附属病院	福島市	
3		福島医療生活協同組合 医療生協わたり病院	福島市	
4		福島赤十字病院	福島市	
5		公立藤田総合病院	国見町	
6		こばやし子どもクリニック	伊達市	
7		いそめこどもクリニック	福島市	
8		すえなが内科小児科クリニック	福島市	
9		森小児科医院	二本松市	
10	相双	公立相馬総合病院	相馬市	
11	県中	寿泉堂総合病院	郡山市	郡山事務所
12		太田西ノ内病院	郡山市	
13		星総合病院	郡山市	
14		太田熱海病院	郡山市	
15		総合南東北病院	郡山市	
16		福島県総合療育センター	郡山市	
17		公立岩瀬病院	須賀川市	
18		国立病院機構福島病院	須賀川市	
19	県南	白河厚生総合病院	白河市	
20	会津	竹田総合病院	会津若松市	
21		福島県立南会津病院	南会津町	
22	いわき	いわき市医療センター	いわき市	
23	県外	茨城県立こども病院	茨城県	福島本部事務所
24		公立昭和病院	東京都	
25		成育医療研究センター	東京都	
26		自治医科大学附属病院	栃木県	
27		順天堂大学医学部附属練馬病院	東京都	

6 平成30年度福島ユニットセンター組織図(平成31年3月31日現在)

